

新しい競争ルールの在り方に関する作業部会（第5回）

平成19年4月20日

株式会社ジュピターテレコム

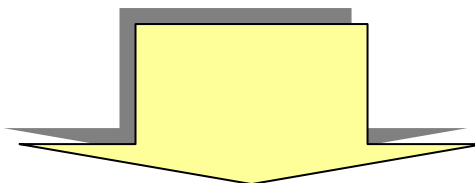
取締役 商品戦略本部長 加藤 徹

新しい競争ルールに関する基本的な考え方

レバレッジ(独占の梃子)による不公正競争の防止

✚ 公益性の高い独占市場からの進出の問題

✚ 独占的市場である通信業界から放送業界への進出の問題



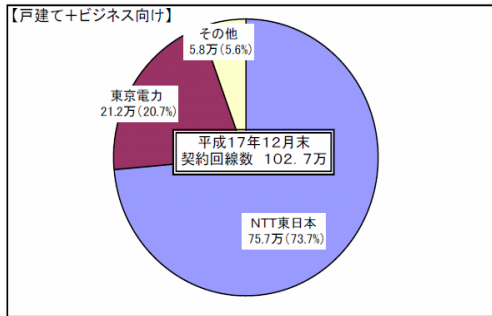
公正競争実現のため事前にルール化と監視が必要

公益性の高い独占市場からの進出の問題

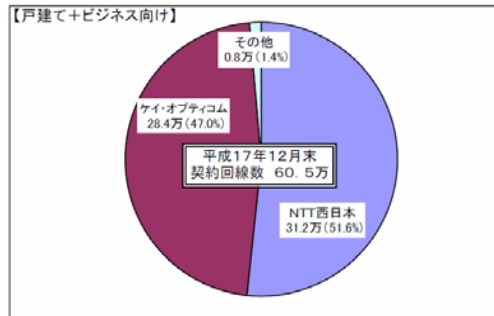


ファイバは実質寡占市場である

関東エリア



関西エリア



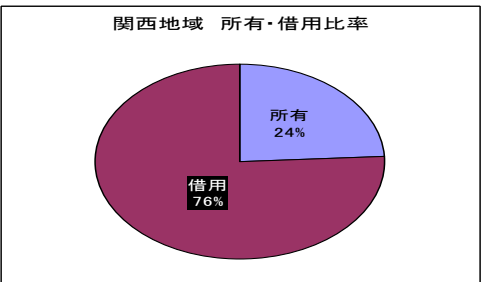
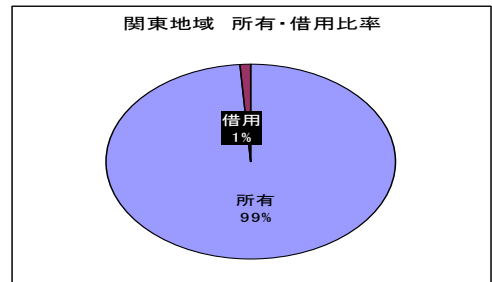
- 関東ではNTT東日本が圧倒的なシェア。
- 関西ではNTT西日本と電力系地域事業者が拮抗している。
- 関東・関西ともにNTT地域と電力系事業者以外のシェアはないに等しい。

2005年度(平成17年度)電気通信事業分野における競争状況の評価 より抜粋

● CATV事業者は独占的な基盤もなく全く独自にHFC網を構築している。

独占市場からの膨大な資金とインフラを活用したサービス展開・NW構築が行われている可能性あり(地域により格差がある)

ご参考: 弊社の加入者系ファイバ所有率



- 当社は自社所有が原則だが、地域事情により借用となる場合も多い
- 関西地域の借用はほぼ電力・電力系

独占的市場である通信業界から放送業界への進出の問題

1. 通信分野と放送分野の比較

膨大な資金力及び資本力

電気通信業界

主要事業者等	(売上)
◆NTTグループ	: 10兆7,411億円
◆KDDIグループ	: 3兆0,608億円
◆ソフトバンクグループ*	: 2兆5,763億円

*ボーダフォンを含む

放送関連業界

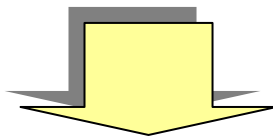
主要事業者等	(売上)
◆日本放送協会	: 7,471億円
◆フジテレビジョン	: 5,935億円
◆東京放送(TBS)	: 3,060億円
◆J:COM	: 1,831億円
◆スカイパーフェクTV	: 823億円

出典:平成17年度各社決算資料

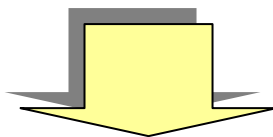
独占的なインフラを有し、膨大な資金を有する事業者の参入により、現放送事業の公正競争が阻害される恐れがある

2. 懸念事項

- 豊富な資金力を背景に市場進出・支配を目的とした不公正な顧客の囲い込み
 - 採算を度外視した顧客獲得営業(ダンピング)
 - コンテンツの独占による不公正な顧客の囲い込み 等



- 有料放送事業の健全な成長を阻害
- 地域放送・サービスの低下に伴う情報の画一化・中央集約化



放送業全体の弱体化
地域の情報格差の拡大

公正競争実現のために

1. レバレッジに関する事前ルールについて

✚ 公益性の高い独占市場からのレバレッジについて

資産・営業リソースなどについて不公正な贈与があってはならない

- ✚ 本体、関係子会社の電気通信会計について一層の透明性を確保するためのルール化

一体的営業(広告補助・人的協力・ブランドの影響下での営業・顧客DBを利用した営業)の制限のルール化

✚ ドミナントの放送業界へのレバレッジについて

圧倒的なブランド力・資金力を背景とした不公正な進出があってはならない

- ✚ 重要コンテンツの独占的囲い込み禁止ルール化

2. ルール設定による監視機能の設定

ルール化に合わせその監視機能が必要

許認可届事項のないルールでは監視が必要

→ 現行の事後対応では影響が大きく迅速さに欠く

現在事後処理機関である紛争処理委員会等の機能を拡大

- ・ 本ルールのリアルタイムな監視機能を追加
- ・ 定期的状況報告義務及び違反に関する指導権限を設定

公正競争の実現